

## にっぽん芝生化大作戦で「鳥取方式」について活発に議論



平成22年11月3日 芝生化全国サポートネットワーク発足式 左から三本君、石渡さん、水野さん(SN会長) 川瀬名誉会長、平井知事、ニール・スミス



取り組み事例紹介



パネルディスカッション



意見を述べるニール理事長



平井知事より祝辞



記念対談

### 「2011年は業者を含めた低コスト維持管理を目指す」

NPO法人グリーンスポーツ鳥取 理事長 ニール・スミス

昨年の活動を振り返りますと、まさに「東奔西走」を絵に描いたように全国津々浦々で「鳥取方式」の活動を伝えていった一年だったように思います。

「鳥取方式」の誤認識を改めるため、難解不落と思われた商標登録も昨年8月に認可され、さらには鳥取県との契約関係がまた一つステップアップしていきました。「鳥取方式」のシンポジウムも米子と鳥取でそれぞれ開催されました。鳥取県協働連携推進課との広報活動(DVD・パンフレット制作)もタイムリーに展開され、徐々に当会への認識も深まりつつあると思います。保育園の園庭も県内37ヶ所が芝生化されましたし、なにより鳥取県教育委員会との技術指導に3年契約を交わしたことは大きな一歩だったと思います。

また、サポートネットワークの設立と同時に行政や民間(青年会議所)の果たすべき役割が明解になってきました。去年も県外のたくさんの行政



機関が当会を視察にやって来ました。その輪は拡大して低コストの「芝生化」に拍車がかかってきたことは言うまでもありません。しかし、地元鳥取市では「維持管理体制」のところで未だ保護者任せの考え方が根付き、限界であるという認識も改善されないまま前に進んでいないのが現状であろうかと思えます。

ところで、日本中のグラウンドを席卷している「野球」というスポーツに「芝生」が馴染めていないことは、みなさんよくご存知だと思います。そのことが維持管理体制ばかりではなく校庭芝生化に大きな影響を及ぼしていることも、この数年間でよく知り得たことの一つです。

2011年は業者を含めた芝生の低コスト維持管理体制を目指し、さらには日本のスポーツ文化を見つめ直しながら、NPOと行政と民間業者が三位一体となってさらにレベルアップした「鳥取方式」を目指していこうと考えています。

#### 目次:

理事長の年頭挨拶	1
三本直生くんからの熱いメッセージ	2
日本芝生化大作戦より	2
鳥取方式の芝生化全国サポートネットワークの発足式より	3
GSTの紹介コーナー	3
中野理事より	4

## 和歌山県から小学5年生のサポーターがSN発足式に花を添えた

11/3

## 三本直生君の力強いメッセージに観客から思わず涙ぐむシーンも

芝生で世界とつながろう

三本直生

ぼくは今、校庭の芝生化に取り組んでいる。去年のマラソン大会で行った小学校が芝生化されていて、自分の学校もこうなったらいいなあと考えた。

そこで、夏休みの自由研究で校庭芝生化を取り上げて、最初に会いに行ったのが、鳥取のニール・スミスさんだ。ニールさんは鳥取方式というやりかたを作って、全国あちこちの小学校や保育園を芝生化している。そのことがテレビで紹介されていた。ニールさんは、グリーンスポーツ鳥取というNPO法人を作っていたので、ぼくはそこに電話をかけてみた。電話に男の人が出た。ぼくは鳥取での芝生視察にいくわかってもいいですか、とたずねたら、いいですよ、と言ってもらったのでもう一つ聞いてみた。「ニールさんに直接会えますか。」男の人が言った。「ぼくがニールです。いっしょにまわりますよ。」それがニールさんとの出会いだった。



堂々とした口調で作文を読んだ三本君

で芝生のことになるよ、日本語でシンポジウムでのスピーチもするし、プログラムも書くし、けんかもある。ぼくは、ニールさんから芝生のことを全部教えてもらった。

ニールさんには何回も会ったけど、あまり外国人だと思っただけじゃない。それよりもなによりも、ニールさんはぼくにとって芝生の先生だ。ニールさんのまわりには、芝生の仲間がいっぱいいる。「みんな日本人だけど、みんなやる気じゅう分で、明るくて、ねばり強い。日本人とニュージーランド人のちがいよりも、芝生が好きなのとそうでない人のちがいの方が大きいと思う。ぼくは、世界中の芝生が好きなのと、友だちになりたい。」

11/2

## グリーンスポーツ鳥取による芝生化勉強会（グラスミーティング）

バス内で説明するニール



ポット苗に興味深く見ていた関係者



グリーンフィールドにて



鳥大附属小学校にて

11月2日(火)「にっぽん芝生化大作戦」の事業の一つである「鳥取方式の現地視察」をGSTの理事長ニール・スミス氏と理事の元鳥取大学農学部准教授中野淳一氏がともにバス2台に乗って経緯や現状を説明した。また、実際に鳥取方式で設置されたパターンの違うグリーンフィールド、鳥大附属小学校、県営布勢球技場の三箇所の芝生を視察、裸足になって芝の感触を確かめる関係者もいた。布勢の県営球技場ではスプリンクラーの放水とティフトンのポット苗を手にとって興味深く見入っていた。



布勢県営球技場にて

# 広がれ! 「鳥取方式」の芝生化の輪



(社)鳥取青年会議所が取り組んだ「芝生化支援事業」の「にっぽん芝生化大作戦」のチラシ



芝刈り機もこの日はかりは子どもたちの遊具に(青年会議所主催)



陸上競技場をオープンスペースにして遊び場に(青年会議所主催)



鳥取青年会議所の水野氏(SN会長)より力強い「サポートネットワーク発足宣言」が行われた



コカ・コーラウェストスポーツパーク鳥取県民体育館内ではGSTの活動と「鳥取方式」の商標登録をパネルで紹介した

「にっぽん芝生化大作戦」(社)鳥取青年会議所、鳥取県ほか主催、NPO法人グリーンスポーツ鳥取など協力)の芝生化シンポジウムが11月3日、コカ・コーラウェストスポーツパーク県民体育館サブアリーナで開催された。鳥取青年会議所理事長の安田氏より開会の挨拶があった後、「すべての子どもたちに芝生のグラウンドを」をテーマにネットワーク発足記念対談が行われた。日本サッカー協会名誉会長の川淵三郎氏と鳥取県知事の平井伸司氏をゲストに招き、熱い芝生化の思いが交わされた。その後、「鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク」の発足式が行われ、式典に花を添えるべく石渡さんと三本君の温かいメッセージが寄せられた。また、日本サッカー協会名誉会長の川淵氏はSN初代キャプテンに任命された。

## クラブ紹介

## こんにちはKRFCです!

地域密着型ラグビークラブで天然芝生を自分の活動拠点とする。2003年から練習が始まり、2004年10月に初試合をしました。特徴は幼稚園児から50歳代までのラグビー好きな人が活躍できるクラブであり、ラグビーの本当の時期の10月から4月までのシーズンに平日1回週末1回の1時間30分以内の練習を行うことです。ちなみにこれは海外のラグビー王国での常識です。経験者も初心者も一緒にボールを追いかけて、激しいタックルを通じてチームメートのために汗を流します。試合は勝ったり負けたりで、いずれの場合も試合後は相手の健闘を讃えて、気持ちよく交流する環境でラグビーを楽しんでいます。ジュニアの部は同じ10月から4月まで、毎週土曜日の午後1時30分から1時間の練習でラグビーの楽しさを存分に

味わいながら鳥取県タグラグビー大会3連覇を成し遂げる実力を身に付けています。グラウンドの補修等は会員全員が参加し、自分たちのホームグラウンドを自分たちで良くしていく愛着たっぷりのクラブです。仕事や学校の事情で一旦離れた会員でも又戻って一緒に活動するケースも珍しくありません。会員の中には元日本男子代表と女子代表、ニュージーランド州代表対抗戦の州代表経験者もいる一味変わったクラブです。お問い合わせ・入部希望の方は4頁の連絡先までお気軽にどうぞ。



## バックナンバー



2009年には雑誌「えちか」の創人コーナーでニールスミス理事長が取り上げられました。

## 理事 中野淳一から2011年のメッセージ

## 「鳥取方式」をセカンドステージに

「鳥取方式」を芝生化とその維持管理を地域のトータルシステムとして提案する

NPO法人グリーン  
スポーツ鳥取 理事  
中野 淳一



## 三つの常識の克服

「コウライシバ」・「高級品」・「立ち入り禁止」の三つの常識が底辺にあるために、校庭芝生化は贅沢であり、高額予算が獲得できないとの理由で芝生化は遅々として進展しませんでした。しかし、2006年の日本芝草学会で公表された「鳥取方式」は、社会の常識を納得させるだけの「合理性」・「先見性」・「具体性」を備え、目に見える形で提案しました。そして、その三つの常識の突破口となったものは「ポット苗移植法」でした。やがてテレビや新聞報道を契機に低コストで芝生化できるバミューダグラスのことを多くの人が理解していきました。

## 「鳥取方式」に関する誤解を解くために

しかし、本来の「鳥取方式」の意味を「鳥取方式＝ポット移植」と誤解している人が少なくありません。「鳥取方式」では利用頻度や立地条件にあった芝生化（ポット苗移植法、ロール芝、ビッグロール、天然芝生など）を提案しています。

もう一つの問題点は大都市の校庭芝生化事業で芝生の維持管理にPTAや地域のボランティアの参加を前提条件にしていることです。あらゆる地域でボランティアの組織化とその持続性を期待することには無理があり、都市化された地域ほど「ボランティアの義務化」が足枷となって芝生化を阻む原因になると思われます。

そこで、その解決策として「鳥取方式」ではそ

の提案当初から市町村または中学校単位で、学校・地域・ボランティア・専門業者・アドバイザーが役割と経費を適切に分担するトータルシステムの構築、そのための情報公開と検討委員会の設置を提案しています。

## 芝生化とその維持管理を地域のトータルシステムに

03 年以來現在に至るまで「鳥取方式」が一貫して主張しているコンセプトは、①競技場、校庭、公園、空き地などのそれぞれの芝生ごとに利用目的と利用価値が異なること②効果／費用（B／C）の最大化こそが真の低コストであり、そのための最も合理的な設備と維持管理レベルを組み合わせること③成熟社会には生命と環境・経済と労働、地域社会と持続性は避けて通れない必須項目であり、その実現には税の投入と市場原理に基づく企業活動の両者の隘路を補完するソーシャルビジネスを創出することで



月間体育施設の冊子に掲載された「鳥取方式」

最後に、「鳥取方式」は単に芝生化工法を提案しているのではなく、芝生化とその維持管理を地域のトータルシステムとして提案しようとしていることを繰り返して強調しておきます。併せて、子どもたちから大人までが日常的に利用できる「遊び場の芝生」が、生涯スポーツの定着と、さらには将来の成熟社会を切り開くための地域力増強の突破口になることを期待したい。

## 鳥取方式® 鳥取方式®

「鳥取方式®」は特定非営利活動法人グリーンスポーツ鳥取が所有する商標登録でございます。著作物・商標等の無断使用は禁止します。取扱に関してはGSTに相談してください。



鳥取県鳥取市桂見831-14

電話・FAX 0857 (32) 6282

ホームページ

[www.greensportstottori.org](http://www.greensportstottori.org)